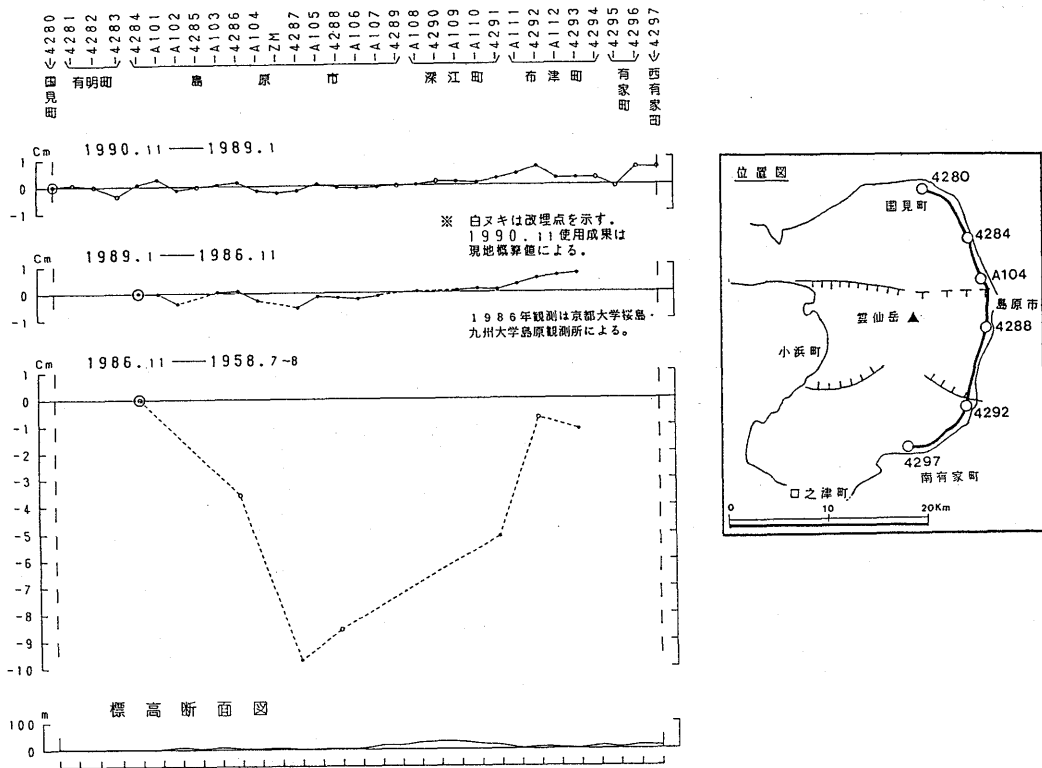


島原半島の地殻変動*

国土地理院

国土地理院は1990年11月17日の雲仙火山普賢岳噴火直後に島原半島に於て緊急測量を実施した。測量は水準測量とGPSによる距離測量である。

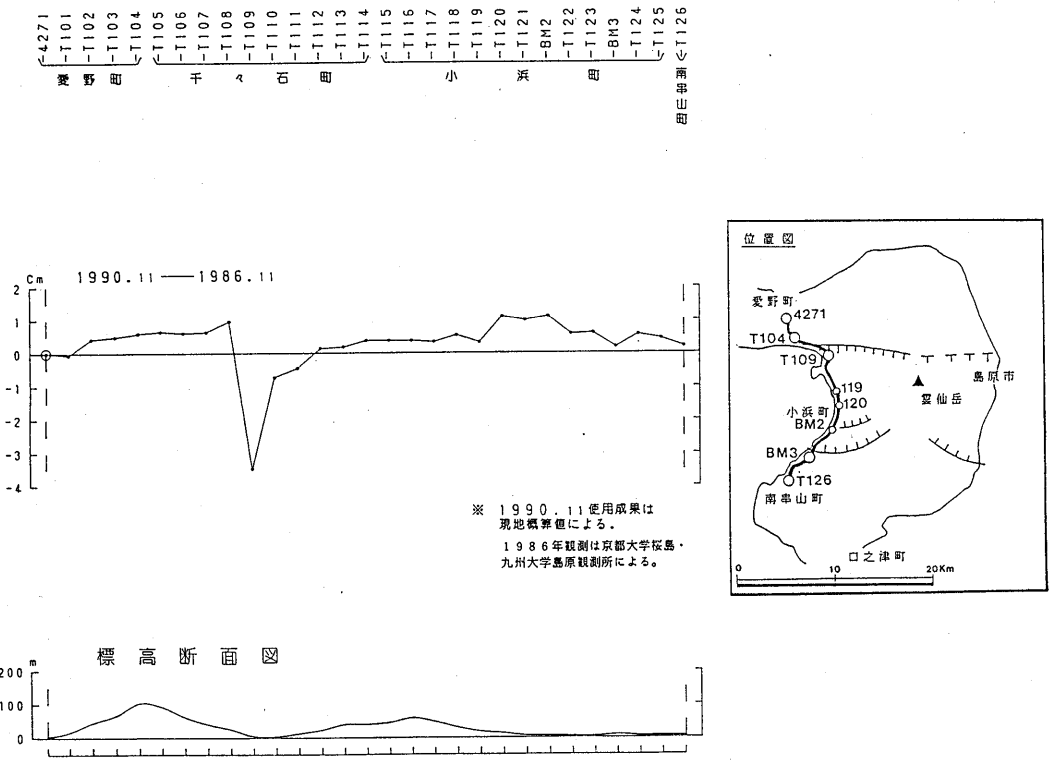
第1図は島原半島東岸の国土地理院の水準路線の測量結果である。前回の測量は1989年1月に行われている。雲仙地溝中に4-5mmの定常的な沈降がみられる。第2図は島原半島西岸の京大・九大の水準路線の測量結果である。千々石断層付近の大きな変動は水準点の設置環境による局地的なものであろう。



第1図 島原半島東岸の上下変動

Fig. 1 Level changes along the east coast of the Shimabara Peninsula.

* Received 25 Apr., 1991



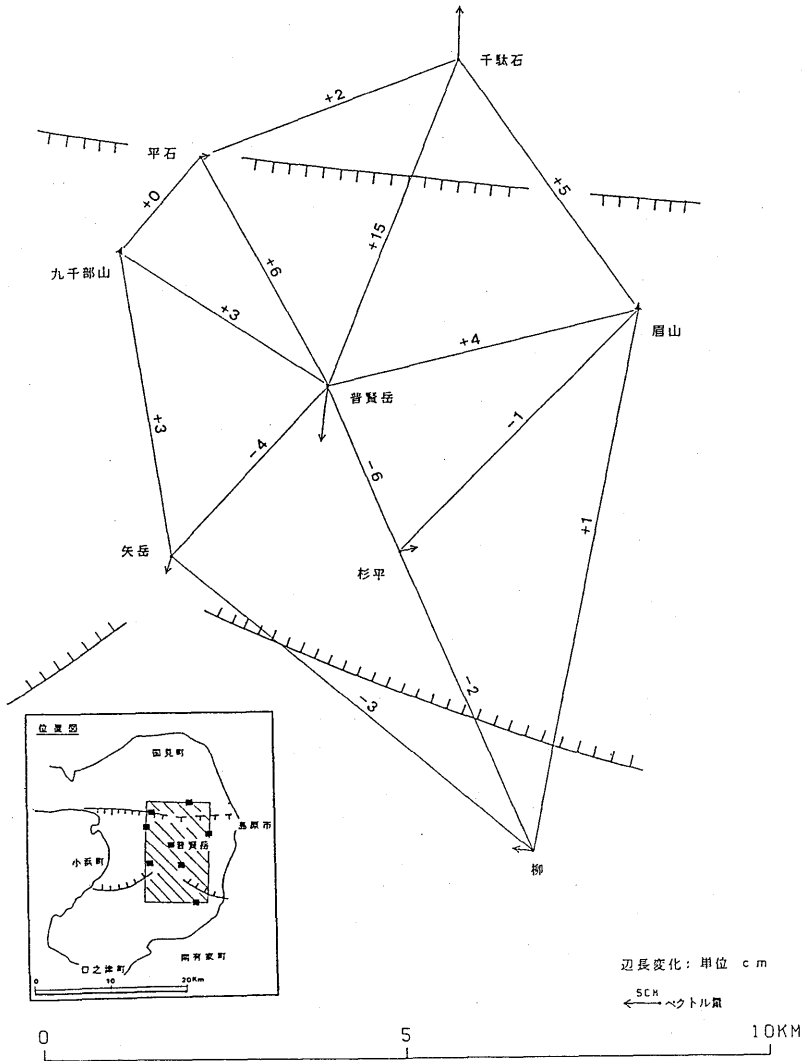
第 2 図 島原半島西岸の上下変動

Fig. 2 Level change along the west coast of the Shimabara Peninsula.

第 3, 4 図は G P S 測量による普賢岳周辺の地殻水平変動である。前回測量は 1976-1982 年に E D M により実施されている。およそ 10 年間の定常的地殻水平変動が観測されている。

今回の噴火に伴う地殻変動は水準測量, 距離測量とも観測されていない。

1990 (GPS) ————— 1976~1982 (二次網)



第 4 図 雲仙岳周辺の辺長変化と水平変動

Fig. 4 Distance changes and horizontal movements around Mt. Fugendake.